

養護教諭の職務についての調査研究

第1報 職務に対する意識の実態

大西真由実・木野本はるみ・駒田玉美^{*1}・中川勝子^{*2}

岡本陽子^{*3}・森尾邦江^{*4}・村田鈴子^{*5}

A Study on the Responsibilities of School Nurse Teachers in the School.

First Report: A Survey on the Responses and Attitudes of School Nurse Teachers toward their Jobs.

Mayumi ONISHI, Harumi KINOMOTO, Tamami KOMADA^{*1}, Katsuko NAKAGAWA^{*2},
Yoko OKAMOTO^{*3}, Kunie MORIO^{*4}, Suzuko MURATA^{*5}

Recently the expectation and demands for the school nurse teachers have been increasing in the society. But many teachers are puzzled by the various and diversified responsibilities assigned to them by the schools. Therefore, we surveyed what kinds of responses and attitudes they have taken and take toward their jobs by sending questionnaires to them at their schools in Mie Prefecture. (Samples were 466.)

The results are as follows;

- 1) As a whole, most of them sometimes feel stresses in their duties in the schools but maintain good relationships with their colleagues, although sometimes they feel embarrassed with what pupils really think in the schools. They love their jobs and have positive attitudes for their responsibilities, and are satisfied with their responsibilities, but feel lack of getting the opportunity and the time for their trainings.
- 2) Compared with the elementary, secondary and high school levels, there are much more teachers who feel stresses and embarrassed in treating pupils in the secondary school level than other levels.
- 3) Compared with their serving years, teachers with less serving year are very positive to their jobs, but teachers with 6 to 10 years' experiences feel embarrassed with their jobs and their human relationships with their colleagues.

* 1 美里村立辰水小学校, * 2 伊勢市立城田小学校, * 3 三重県立神戸高等学校,

* 4 三重県立伊賀つばさ学園, * 5 楠町立楠小学校

I. はじめに

学校教育における児童・生徒の健康の保持増進の観点から様々な取り組みがなされている。中央教育審議会答申では、いじめの兆候への気づきや保健室登校の指導等養護教諭の役割の重要性を明記している。また、保健体育審議会答申では従来の職務に加え、心身の健康に関する現代的課題の深刻化を踏まえて「新たな役割」と「求められる資質」を打ち出している。このように養護教諭に対する期待と要求は増大している。しかし、現場の養護教諭の中には、養護教諭のあり方や職務について戸惑いを感じている者も少なくない。

そこで、三重県下に勤務する養護教諭を対象に日常活動の中で直面する問題点と課題及び今後の職務のあり方について、どのような考えを抱いているのかを明らかにするため、実態調査を行った。本報では日常感じる職務に対する意識13項目について検討を行ったので報告する。

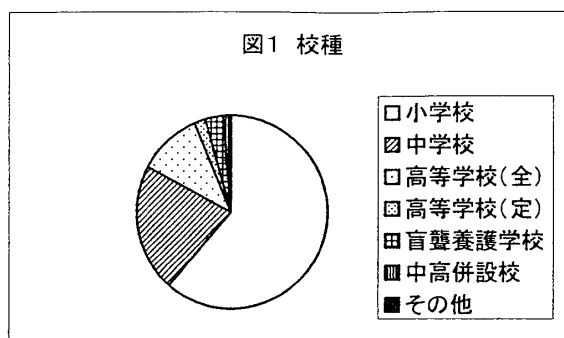
II. 研究方法

II・1. 調査対象及び方法

三重県内の学校に勤務する養護教諭731名を対象に質問紙郵送法（一部手渡し）による調査を実施した。有効回答数は466名（63.7%）であった。その内訳は以下の通りである。

a. 校種（図1）

小学校	285名（61.2%）
中学校	100名（21.5%）
高等学校（全）	50名（10.7%）
高等学校（定）	9名（1.9%）
盲聾養護学校	14名（3.0%）
中高併設校	6名（1.3%）
その他	1名（0.2%）

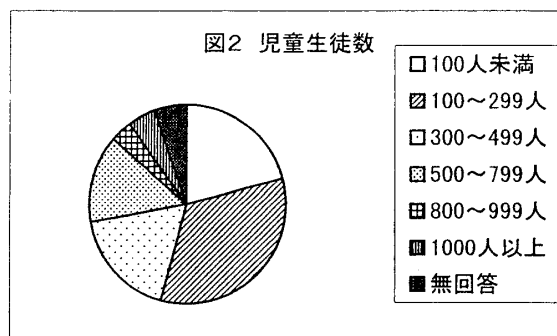


b. 設置者

公立学校	452名（97.0%）
私立学校	10名（2.1%）
国立学校	3名（0.6%）
その他	1名（0.2%）

c. 児童生徒数（図2）

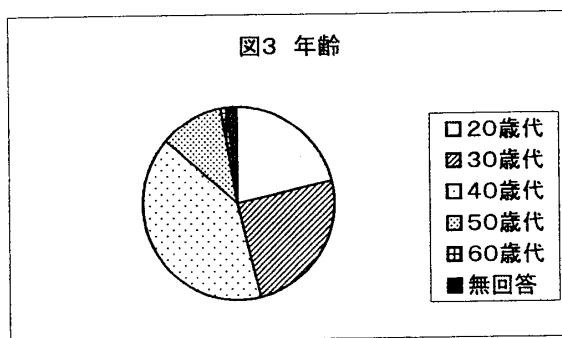
100人未満	97名（20.8%）
100～299人	156名（33.5%）
300～499人	83名（17.8%）
500～799人	66名（14.2%）
800～999人	18名（3.9%）
1000人以上	22名（4.7%）



無回答	24名 (5.2%)
d. 複数配置	
複数有り	32名 (6.9%)
複数無し	431名 (92.5%)
その他	1名 (0.2%)
無回答	2名 (0.4%)

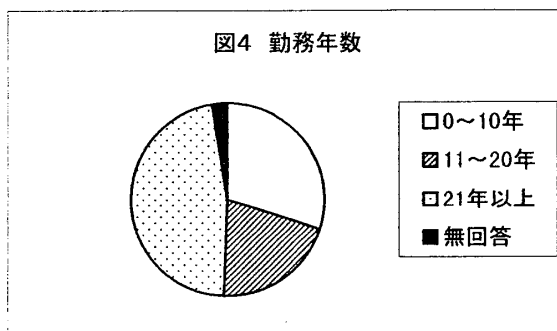
e. 年齢 (図3)

20歳代	100名 (21.5%)
30歳代	115名 (24.7%)
40歳代	187名 (40.1%)
50歳代	51名 (10.9%)
60歳代	5名 (1.1%)
無回答	8名 (1.7%)



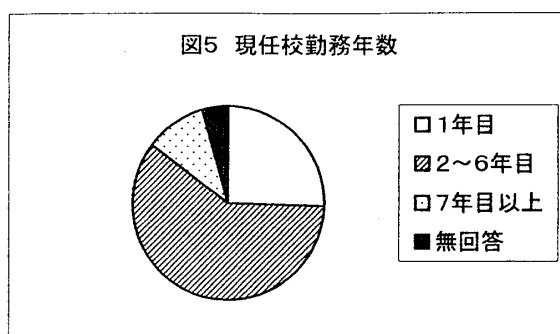
f. 勤務年数 (図4)

1年未満	1名 (0.2%)
1~10年	139名 (29.8%)
11~20年	96名 (20.6%)
21~30年	174名 (37.3%)
31~40年	39名 (8.4%)
41年以上	5名 (1.1%)
無回答	12名 (2.6%)



g. 現任校勤務年数 (図5)

1年目	119名 (25.5%)
2年目	75名 (16.1%)
3年目	60名 (12.9%)
4年目	55名 (11.8%)
5年目	35名 (7.5%)
6年目	54名 (11.6%)
7年目	17名 (3.6%)
8年目	14名 (3.0%)
9年目	11名 (2.4%)
10年目	5名 (1.1%)
無回答	21名 (4.5%)



回答者の勤務校は、小学校61.2%、中学校21.5%、高等学校10.7%であり、小学校勤務が多かった(図1)。児童生徒数は300人以下の学校が54.3%と過半数を占めており、小規模校が多かった(図2)。年齢は40歳代が40.1%と最も多く、次いで30歳代24.7%、20歳代21.5%だった(図3)。また、勤務年数は10年以下30.0%、11~20年20.6%、21~30年37.3%、31年以上9.5%であった(図4)。現任校勤務年数は1年目が25.5%、2~6年目が59.9%を占めていた(図5)。

II・2. 調査実施時期

1999年2月から3月

II・3. 調査内容

養護教諭の職務についての調査内容は次のようなものである。

- 1)養護教諭の職務に対する意識
- 2)職務の現在の状況
- 3)職務に対する今後の望ましい関わり方
- 4)保健学習を行うことについての意思
- 5)今後特に力を注ぎたい職務内容
- 6)養護教諭の仕事に対する意見

II・4. 処理及び分析方法

調査結果はロータス123を用いてパソコン処理にて単純集計及びクロス集計した。

分析は、HALBAUを用いて χ^2 値を算出し、 χ^2 検定により有意差を検証した。

III. 結果及び考察

III・1. 単純集計結果及び考察

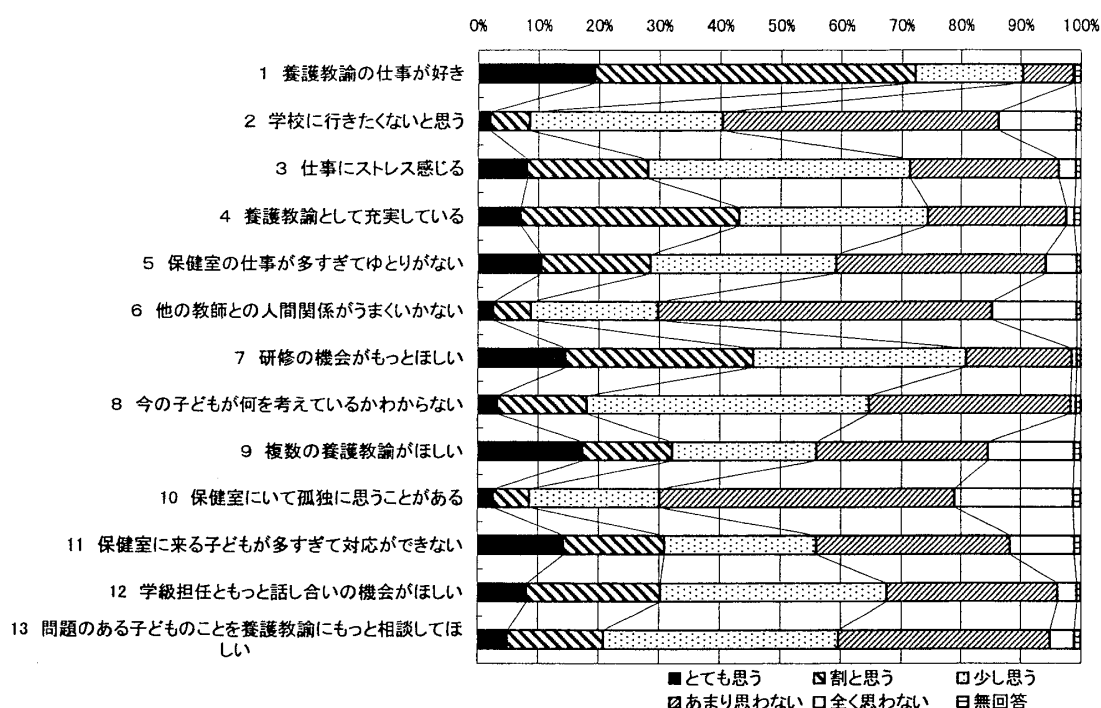
養護教諭の職務に対する意識について全体的にみると、「とても思う」「割と思う」という肯定的な回答が最も多かったものは「仕事が好き」72.3%であった。肯定的な回答が多かったのは8項目あり、割合が多い順に列挙すると、「他教師との人間関係がうまくいっている」69.6%、「孤独を感じない」68.6%、「学校に行きたくないと思わない」58.8%、「研修の機会がもっとほしいと思う」45.5%、「養護教諭として充実していると思う」43.2%、「保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応が出来ないと思わない」42.9%、「保健室の仕事が多すぎてゆとりがないと思わない」40.2%であった。

逆に消極的な回答が多かった項目は、「今の子どもが何を考えているかわからないと少し思う」46.6%、「仕事にストレスを感じると少し思う」43.3%、「複数の養護教諭がほしいとあまり・全く思わない」42.9%の3項目のみであった。

以上のことから養護教諭は人間関係や周囲との連携が課題といわれているが、肯定的な答え

が多く、ほぼ充実している様子が伺えた。(図6)。

図6 職務に対する意識(単純集計)



次に養護教諭の職務に対する感じ方について、校種別、勤務年数別、現任校勤務年数別の関連をみるために感じ方の項目毎にクロス集計を行い、比較検討した。

Ⅲ・2・1・1. 校種別クロス集計結果

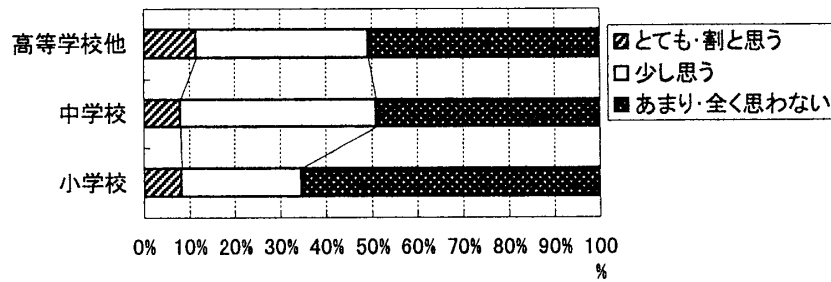
「養護教諭の仕事が好き」に対し、「とても思う」「割と思う」と答えた養護教諭は、小学校75.4%中学校69.7%高等学校他71.8%であり、有意な差はみられなかった。

「学校に行きたくないと思う」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、小学校65.4%中学校49.0%高等学校他50.6%であり、小学校勤務者に有意に多くみられた(p < 0.05) (表1, 図7)。

表1 校種×学校に行きたくないと思う

	小学校	中学校	高等学校他	合計
とても・割と思う	8.1%	8.0%	11.4%	8.7%
少し思う	26.5%	43.0%	38.0%	32.0%
あまり・全く思わない	65.4%	49.0%	50.6%	59.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図7 校種×学校に行きたくないと思う

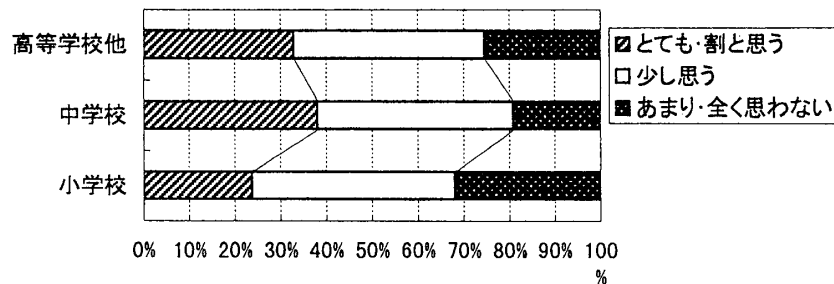


「仕事にストレスを感じる」は「少し思う」がどの校種でも多く、「あまり思わない」「全く思わない」は、小学校31.8%中学校19.0%高等学校他25.3%であり、小学校勤務者に有意に多くみられた($p < 0.05$) (表2, 図8)。

表2 校種×仕事にストレスを感じる

	小学校	中学校	高等学校他	合計
とても・割と思う	23.7%	38.0%	32.9%	28.4%
少し思う	44.5%	43.0%	41.8%	43.7%
あまり・全く思わない	31.8%	19.0%	25.3%	27.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図8 校種×仕事にストレスを感じる



「養護教諭として充実している」は、小学校44.8%中学校42.4%高等学校他42.3%であり、有意な差はみられなかった。

「保健室の仕事が多すぎてゆとりがない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、小学校44.5%中学校33.3%高等学校他37.2%であり、有意な差はみられなかった。

「他の教師との人間関係がうまくいかない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、小学校74.0%中学校63.6%高等学校他67.9%であり、有意な差はみられなかった。

「研修の機会がもっとほしい」は、小学校46.6%中学校45.5%高等学校他48.7%であり、有意な差はみられなかった。

「今の子どもが何を考えているかわからない」に「少し思う」と答えた養護教諭は、小学校

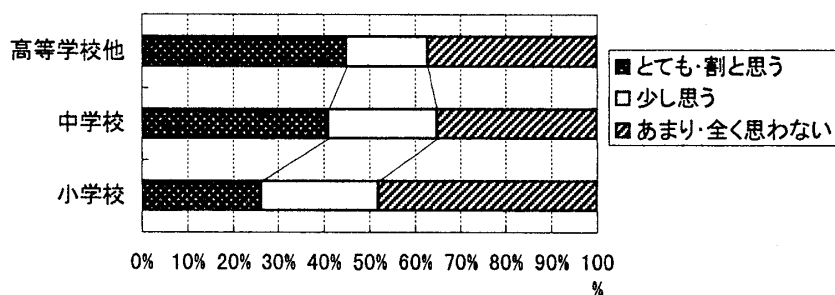
47.7%中学校46.0%高等学校他45.6%であり、有意な差はみられなかった。

「学校に複数の養護教諭がほしい」に対し、「あまり思わない」「全く思わない」は、小学校48.1%中学校35.0%高等学校他37.2%であり、小学校勤務者に有意に多くみられた($p<0.01$) (表3, 図9)。

表3 校種×学校に複数の養護教諭がほしい

	小学校	中学校	高等学校他	合計
とても・割と思う	26.1%	41.0%	44.9%	32.5%
少し思う	25.8%	24.0%	17.9%	24.1%
あまり・全く思わない	48.1%	35.0%	37.2%	43.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図9 校種×学校に複数の養護教諭がほしい

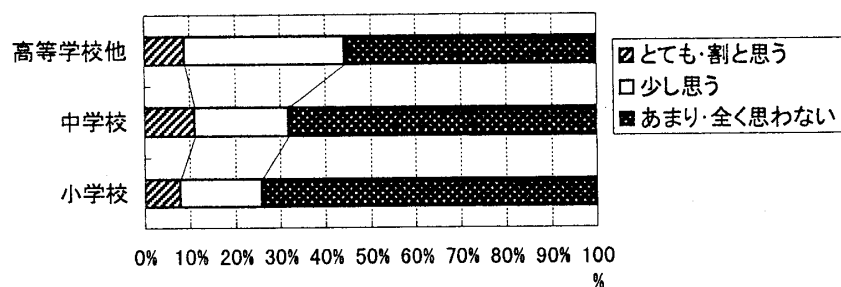


「保健室において孤独に思うことがある」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、小学校74.0%中学校68.0%高等学校他55.7%であり、高等学校他勤務者に有意に少なくみられた($p<0.05$) (表4, 図10)。

表4 校種×保健室において孤独に思うことがある

	小学校	中学校	高等学校他	合計
とても・割と思う	7.8%	11.0%	8.9%	8.7%
少し思う	18.1%	21.0%	35.4%	21.7%
あまり・全く思わない	74.0%	68.0%	55.7%	69.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図10 校種×保健室において孤独に思うことがある

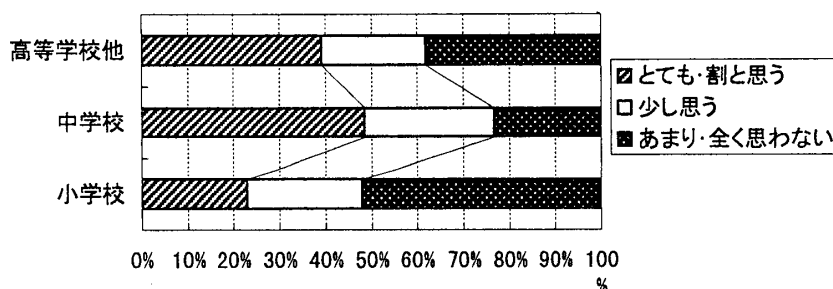


「保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応ができない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、小学校51.9%中学校23.2%高等学校他38.0%であり、小学校勤務者に有意に多くみられた($p<0.001$) (表5, 図11)。

表5 校種×保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応ができない

	小学校	中学校	高等学校他	合計
とても・割と思う	23.0%	48.5%	39.2%	31.2%
少し思う	25.1%	28.3%	22.8%	25.4%
あまり・全く思わない	51.9%	23.2%	38.0%	43.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図11 校種×保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応ができない



「学級担任ともっと話し合いの機会がほしい」は、小学校26.0%中学校36.4%高等学校他41.0%であり、有意な差はみられなかった。

「問題のある子どものことを養護教諭にもっと相談してほしい」は、小学校19.2%中学校22.2%高等学校他26.9%であり、有意な差はみられなかった。

Ⅲ・2・1・2. 校種別クロス集計考察

校種によって有意差のあった項目は、5項目であった。

小学校では他の校種に対し、「学校に行きたくないと思わない」、「仕事にストレスを感じると思わない」、「学校に複数の養護教諭がほしいと思わない」、「保健室にいて孤独に思うことがない」、「保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応ができないと思わない」、との回答が有意に多かった。このことから、小学校での養護教諭の仕事は他の校種に対し、肯定的意識を持っており、勤務しやすい状況であるといえる。

中学校では「学校に行きたくないと思わない」との回答が少なく、「仕事にストレスを感じる」、「学校に複数の養護教諭がほしい」、「保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応ができないと思う」との回答が多かったことから、中学校での勤務には他の校種よりストレスが多く、問題があることがわかった。

高等学校他に「学校に複数の養護教諭がほしい」に「思う」との回答が多く、「保健室にいて孤独に思うことがある」に「思わない」との回答が有意に少なかったことから、複数配置を

望んでいることがわかった。

中学校・高等学校他の勤務者では「学校に行きたくないと思わない」との回答が有意に少なく、「仕事にストレスを感じる」、「学校に複数の養護教諭がほしいと思う」、「保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応ができないと思う」との回答が有意に多かった。

後藤ら¹⁾は複数配置校に勤務する養護教諭への全国調査から、複数配置校での利点に「仕事について相談できる」「多面的に見ることができる」「来室者への対応が十分にできる」などを報告している。このことから中学校・高等学校他での問題には複数配置を実施することで解消される問題が多数含まれていると考えられる。

Ⅲ・2・2・1. 勤務年数別クロス集計結果

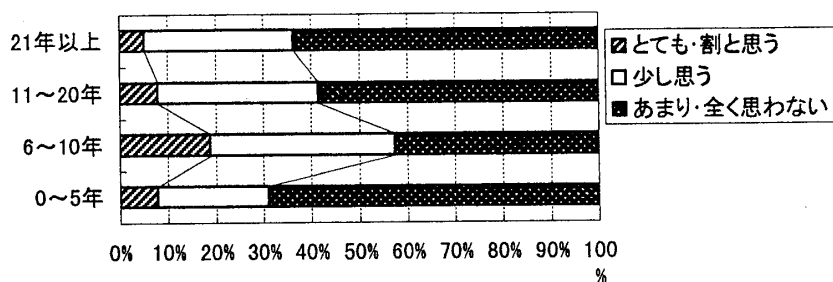
「養護教諭の仕事が好き」に対し、「とても思う」「割と思う」と答えた養護教諭は、勤務年数0～5年が84.2%，6～10年79.5%，11～20年73.0%，21年以上67.0%であり、有意な差はみられなかった。

「学校に行きたくないと思う」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、0～5年が68.8%，6～10年42.5%，11～20年58.4%，21年以上63.6%であり、勤務年数が6～10年に有意に少なくみられた($p < 0.01$) (表6, 図12)。

表6 勤務年数×学校に行きたくないと思う

	0～5年	6～10年	11～20年	21年以上	合計
とても・割と思う	7.8%	18.8%	7.9%	5.1%	8.6%
少し思う	23.4%	38.8%	33.7%	31.3%	31.8%
あまり・全く思わない	68.8%	42.5%	58.4%	63.6%	59.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図12 勤務年数×学校に行きたくないと思う



「仕事にストレスを感じる」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、0～5年が30.3%，6～10年21.8%，11～20年28.0%，21年以上29.9%であり、有意な差はみられなかった。

「養護教諭として充実している」は、0～5年が40.8%，6～10年38.5%，11～20年38.0%，21年以上50.5%であり、有意な差はみられなかった。

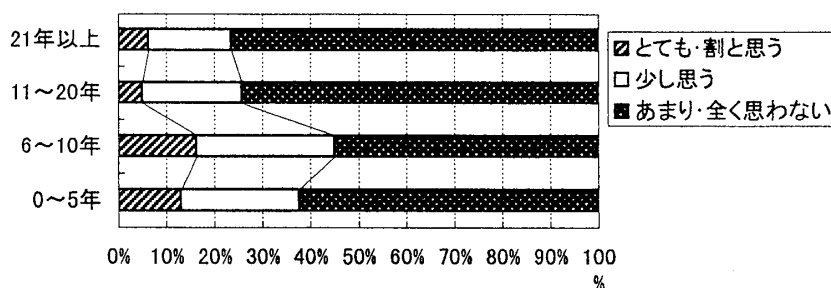
「保健室の仕事が多すぎてゆとりがない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、0～5年が53.9%，6～10年34.6%，11～20年42.0%，21年以上38.1%であり、有意な差はみられなかった。

「他の教師との人間関係がうまくいかない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、0～5年が62.3%，6～10年55.0%，11～20年74.3%，21年以上76.4%であり、勤務年数が6～10年に有意に少なくみられた($p < 0.01$) (表7, 図13)。

表7 勤務年数×他の教師との人間関係がうまくいかない

	0～5年	6～10年	11～20年	21年以上	合計
とても・割と思う	13.0%	16.3%	5.0%	6.2%	8.8%
少し思う	24.7%	28.8%	20.8%	17.4%	21.4%
あまり・全く思わない	62.3%	55.0%	74.3%	76.4%	69.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図13 勤務年数×他の教師との人間関係がうまくいかない



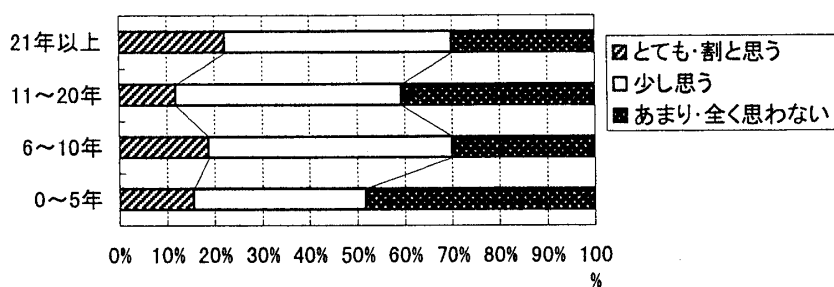
「研修の機会がもっとほしい」は、0～5年が52.6%，6～10年53.8%，11～20年42.0%，21年以上43.8%であり、有意な差はみられなかった。

「今の子どもが何を考えているかわからない」に「少し思う」と答えた養護教諭は、0～5年が36.4%，6～10年51.3%，11～20年47.5%，21年以上47.9%であり、勤務年数が0～5年に有意に少なくみられた($p < 0.05$) (表8, 図14)。

表8 勤務年数×今の子どもが何を考えているかわからない

	0～5年	6～10年	11～20年	21年以上	合計
とても・割と思う	15.6%	18.8%	11.9%	22.2%	18.1%
少し思う	36.4%	51.3%	47.5%	47.9%	46.5%
あまり・全く思わない	48.1%	30.0%	40.6%	29.9%	35.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図14 勤務年数×今の子どもが何を考えているかわからない



「学校に複数の養護教諭がほしい」と「思わない」は、0~5年が37.7%，6~10年39.2%，11~20年52.5%，21年以上43.8%であり、有意な差はみられなかった。

「保健室にいて孤独に思うことがある」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、0~5年が56.6%，6~10年67.9%，11~20年75.0%，21年以上72.7%であり、有意な差はみられなかった。

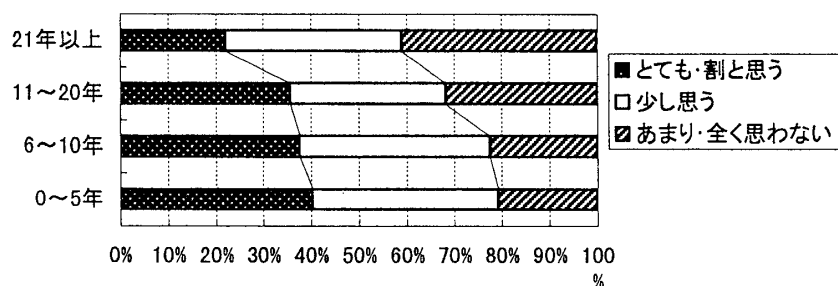
「保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応ができない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は、0~5年が42.1%，6~10年38.5%，11~20年48.0%，21年以上44.8%であり、有意な差はみられなかった。

「学級担任ともっと話し合いの機会がほしい」に「とても思う」「割と思う」と答えた養護教諭は、0~5年が40.3%，6~10年37.5%，11~20年35.6%，21年以上22.1%であり、勤務年数が21年以上に有意に少なくみられた($p < 0.01$) (表9, 図15)。

表9 勤務年数×学級担任ともっと話し合いの機会がほしい

	0~5年	6~10年	11~20年	21年以上	合計
とても・割と思う	40.3%	37.5%	35.6%	22.1%	30.9%
少し思う	39.0%	40.0%	32.7%	36.9%	36.9%
あまり・全く思わない	20.8%	22.5%	31.7%	41.0%	32.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図15 勤務年数×学級担任ともっと話し合いの機会がほしい

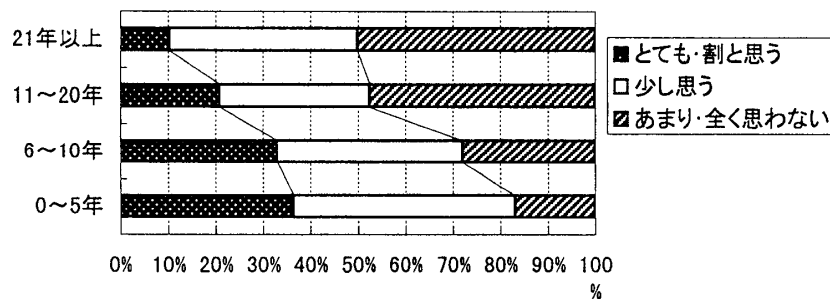


「問題のある子どものことを養護教諭にもっと相談してほしい」に「とても思う」「割と思う」と答えた養護教諭は、0～5年が36.4%，6～10年32.9%，11～20年20.8%，21年以上10.3%であり、勤務年数が11年以上に有意に少なくみられた($p < 0.001$) (表10, 図16)。

表10 勤務年数×問題のある子どものことを養護教諭にもっと相談してほしい

	0～5年	6～10年	11～20年	21年以上	合計
とても・割と思う	36.4%	32.9%	20.8%	10.3%	21.1%
少し思う	46.8%	39.2%	31.7%	39.7%	39.0%
あまり・全く思わない	16.9%	27.8%	47.5%	50.0%	39.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図16 勤務年数×問題のある子どものことを養護教諭にもっと相談してほしい



Ⅲ・2・2・2. 勤務年数別クロス集計考察

勤務年数の短い者に「学級担任ともっと話し合いの機会がほしい」「問題のある子どものことをもっと相談してほしい」と回答している者が多く、勤務年数が長くなるにつれて割合が少なくなっていることから、勤務年数に比例して周囲との連携がスムーズに行われている様子うかがえた。井筒ら²⁾は養護教諭と教諭の連携の必要性と実際の連携状況がよいこと、連携を進める上においては両教諭からの歩み寄りが必要であることを報告している。勤務年数が短い者は年齢も若く、学級担任に働きかけることに慣れていないことがこのような結果に結びついたと考えられる。

「学校に行きたくないと思わない」「他教師との人間関係がうまくいっている」と回答している者は、6～10年の勤務者に少なくみられたことから、勤務になれてきた頃に職務や人間関係に対する不安が生まれてくるのではないかと考えた。奥平ら^{3) 4)}は沖縄県中学校教師への調査で20歳代女性に「仕事の志気の低下」、「精神健康尺度」が20～30歳代女性において「神経症群」が高くみられたと報告している。これらは6～10年勤務者と年齢が近いと考えられ、今回の結果とも類似点がある。

Ⅲ・2・3. 現任校勤務年数別結果及び考察

「養護教諭の仕事が好き」に対し、「とても思う」「割と思う」と答えた養護教諭は、1年目

78.8%，2～4年目72.3%，5年目以上69.5%であり，有意な差はみられなかったが，年数が少ない方が仕事が好きな傾向がある。

「学校に行きたくないと思う」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は，1年目60.2%，2～4年目58.5%，5年目以上60.9%であり，有意な差はみられなかった。

「仕事にストレスを感じる」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は，1年目30.5%，2～4年目26.6%，5年目以上28.5%であり，有意な差はみられなかった。

「養護教諭として充実している」は，1年目45.8%，2～4年目44.7%，5年目以上41.1%であり，有意な差はみられなかった。

「保健室の仕事が多すぎてゆとりがない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は，1年目46.6%，2～4年目42.0%，5年目以上30.5%であり，有意な差はみられなかった。

「他の教師との人間関係がうまくいかない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は，1年目68.6%，2～4年目68.6%，5年目以上74.2%であり，有意な差はみられなかった。

「研修の機会がもっとほしい」は，1年目48.3%，2～4年目39.3%，5年目以上51.7%であり，有意な差はみられなかった。

「今の子どもが何を考えているかわからない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は，1年目39.0%，2～4年目37.8%，5年目以上29.1%であり，有意な差はみられなかった。

「学校に複数の養護教諭がほしい」は，1年目37.3%，2～4年目30.3%，5年目以上31.8%であり，有意な差はみられなかった。

「保健室にいて孤独に思うことがある」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は，1年目69.5%，2～4年目70.7%，5年目以上68.9%であり，有意な差はみられなかった。

「保健室にくる子どもが多すぎて1人ひとり対応ができない」に「あまり思わない」「全く思わない」と答えた養護教諭は，1年目44.9%，2～4年目43.1%，5年目以上43.7%であり，有意な差はみられなかった。

「学級担任ともっと話し合いの機会がほしい」に「とても思う」「割と思う」と答えた養護教諭は，1年目31.4%，2～4年目27.7%，5年目以上33.8%であり，有意な差はみられなかった。

「問題のある子どものことを養護教諭にもっと相談してほしい」に「とても思う」「割と思う」と答えた養護教諭は，1年目22.9%，2～4年目23.4%，5年目以上16.6%であり，有意な差はみられなかった。

現任校勤務年数別には有意差がみられなかったことから，学校を転任することは職務に対する意識に影響を与えることが少ないことが分かった。

IV. まとめ

以上、アンケート分析結果及び考察より、職務に対する意識の実態が校種別・勤務年数別・現任校勤務年数別において明らかになった。現在三重県の養護教諭は「仕事が好き」「孤独ではない」「人間関係がよい」「養護教諭として充実している」と答えており、肯定的で前向きな捉え方をしていることが分かった。また、「研修の機会がもっとほしい」など仕事に対して意欲的であることも分かった。

しかし、中学校勤務者には、ストレスを感じている者や保健室にくる子どもが多すぎることで対応に苦慮している者も多かったので、何らかの方策を講じる必要がある。中・高等学校他勤務者は、学校に複数の養護教諭がほしいとも感じている。1998年度の文部省調査から「荒れ」の拡大は、不登校の小中学生が12万7千人になったことと併せ学校現場の深刻な実態を示している。校内暴力が発生した学校は高校では43%、中学校では34%と最近増加傾向にあること⁵⁾も中・高等学校勤務者の意識に影響を与えているのではないだろうか。

勤務年数別にみると、経験の浅い者に前向きで意欲的な捉え方が多く、勤務に慣れて周りが見えてくる6～10年の回答者に職務に対する不安や戸惑いの様子が窺われた。この時期にも研修等の整備が必要であろう。

児童・生徒や教職員の健康の保持増進を担う養護教諭は自分自身が身体的にも精神的にも社会的にも健康でなければならない。養護教諭の健康状態は、子どもや教職員等周囲の者に影響を及ぼし、職務の遂行に影響を与えることもある。養護教諭自身が充実感を持てるような環境の整備と、自己の専門性を発揮できるような力量を形成することが求められる。

参考文献

- 1) 後藤ひとみ・佐藤祐造, (1998): 養護教諭の複数配置に関する研究(1) 全国調査による実施校と未実施校の意見, 第45回日本学校保健学会講演集, p.144~145
- 2) 井筒和香菜他, (1997): 児童・生徒の保健問題に関する認識の比較研究 第二報, 第44回日本学校保健学会講演集, p.178~179
- 3) 奥平貴代・金武直美他, (1997): 中学校教師の心身健康に関する研究 第一報 各尺度と基本的属性・労働環境との関連性, 第44回日本学校保健学会講演集, p.420~421
- 4) 砂川洋子・奥平貴代他, (1997): 中学校教師の心身健康に関する研究 第二報 精神健康尺度とその関連要因について, 第44回日本学校保健学会講演集, p.422~423
- 5) 中日新聞: 1999年 8月14日記事
- 6) 文部省, (1997年12月): 平成9年度養護教諭中央研修会資料
- 7) 深谷和子他, (1991): 調査レポート養護教諭4 学校の中の養護教諭, モノグラフ・小学生ノウ, Vol.11-9, 養護教諭, 福武書店教育研究所
- 8) 駒田玉美他, (1999): 養護教諭の職務についての調査研究 職務に対する意識の実態, 第42回東海学校保健学会講演集, p.34